

13	豊橋	豊橋市立栄小学校	フルカワ ユウ 名前 古川 由
分科会番号	3	分科会名	社会科教育 (小学校)

1 研究主題

個別学習と協働学習の一体化を通して、戦争について深く理解し、平和への思いを高める子の育成
6年生社会「平和な世界を守り続けよう ～長く続いた戦争と人々の暮らし～」の実践を通して

2 主題設定の理由

本学級の子ども達は、社会科の学習に前向きに取り組むことができる。歴史学習において、主な出来事や人物について調べ、ノートにまとめることができるようになってきた。話し合いでは、他者が調べた内容をもとに、新しい歴史的事象の見方を獲得する子どもも増えてきた。また、「世界に歩み出した日本」の単元では、戦争を経て、日本が国際社会の表舞台に歩み出たことを理解することができた。ただ、戦争が人々の生活に与える影響や平和を維持すべきという思いを抱く子どもはまだまだ少ない。そうした子どもたちに、身近に多く存在する戦争遺跡について調べたり、戦争を語り継ぐ人達と関わったりする中で、平和を守りたいという思いをより高め、そのために自分がすべきことを主体的に考え、今後の生活で実行しようという思いを抱いてほしいと願いをかけた。また、戦争に関する多様な資料について調べたことを互いに交流し、自分の考えに生かす活動を通して、さまざまな立場から歴史的事象を捉える力をさらに伸ばしてほしいと考えた。

本単元では、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦とそれにもなう国民生活の変化を取り扱う。それまでの時代と比べ、写真や統計、映像資料など、さまざまな資料が多く残っている。一人一人が興味をもったことをテーマに設定し、調べ、それを伝え合う活動をするにあたって、多角的な視点から社会的事象を捉え、戦争への理解を高めるのに適していると考えた。また、本校区には、戦争に関連する遺跡が多くあるため、実際に訪れ、見ることができる。子ども達は身近な存在として、教材を捉えることができるだろう。さらに、実際に戦争を体験した方の話を直接聞き、当時の人々の生活の様子や平和への思いに触れられることは、子ども達が平和への思いを高めるのに有効にはたらくと考える。以上をふまえ、研究主題を設定した。

3 研究の目標

個別学習と協働学習を繰り返すことで、戦争や当時の社会状況について多角的に考え、その恐ろしさを知り、二度と戦争を起こしてはいけないという思いを強くもてる子の育成

4 研究の構想

(1) 研究の仮説

【仮説1】個別学習時において、調査方法を工夫することで、戦争の悲惨さを理解し、平和への思いを高められるだろう。

【仮説2】協働学習時において、話し合い活動の仕方を工夫することで、戦争や当時の社会状況について多角的に考えられるだろう。

(2) 研究の手だて

【仮説1に対する手だて】

《手だて①》戦争の悲惨さを理解し、平和への思いを高めるための調査方法の工夫

- ・図書資料による調べ学習を行い、戦争や当時の社会状況について理解を深められるようにする。
- ・戦争を体験した方と子ども達をつなぐ学習活動を設定し、戦争の悲惨さをより感じられるようにする。

《手だて②》総合的な学習の時間や家庭科との教科横断的な単元構想

- ・豊橋市内の戦争遺跡を見学したり、戦争体験者と交流したりすることで、戦争が身近な問題であることに気づき、平和について考えようとする意欲を高められるようにする。
- ・防空壕掘りやすいとん作りなどの体験活動を行い、当時の国民生活の様子や国民の思いについて実感をともなった理解ができるようにする。

【仮説2に対する手だて】

《手だて③》個人→グループ→全体という学習の流れ

- ・さまざまな資料をもとに、個人がそれぞれの問題意識に応じて調べたことをもち寄り、グループや全体で交流することで、さまざまな視点から戦争や当時の社会状況について捉えられるようにする。

(3) 抽出児童について

仮説の有効性を検証するために、抽出児童としてA児とB児を設定し、実践を通して変容を捉えていく。

A児は、戦争への知識が豊富で、調べ学習や発言も積極的に行うことができるが、自分の考えへのこだわりが強く、友達との関わり合いで、考えを深めるといった経験は少ない。現在海外で起きている戦争への興味は高いが、終結を願う強い気持ちはもっておらず、当事者として考える様子は見られない。

また、B児も社会科が好きで、得意である調べ学習を通して、新しい知識を獲得する姿がよく見られる。しかし、考えを伝えることが苦手で、獲得した知識を他者と交流しようとする姿はあまり見られない。

本実践で出会う他者との関わりを通して、新しいものの見方を獲得してほしい。その見方を生かして、平和の大切さについて自分なりに意見を持ち、どう行動すべきか考えようとする姿に期待する。

(4) 単元構想

- ・ユネスコ協会の出前講座で、戦争体験者は怖い思いをしながら辛い生活をしていたことがわかったよ
- ・話を聞いて戦争はやってはいけないことだと思ったよ ・多くの人に伝える活動をしているのはすごいね
- ・戦争についてもっとくわしく知りたいな ・家族に聞いてみたら戦争の話が知れるかもしれないよ

戦争について聞いてみたいな (家族へインタビュー) ① (話し合い) 手だて①②

<p>【兵士・訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンへ移動中に死にそうな経験をしたらしい ・兵隊さんはどこへ戦いに行ったのかな ・学校では勉強ができず厳しい訓練をしていた 	<p>【辛い生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃食べない野草や虫を食べていたらしい ・子育てする余裕もなく捨てられる子もいたんだね ・大地震も起こって小屋で過ごしていた時期もあった
<p>【空襲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空襲のにおいはとても臭く、食欲もわかかなかった ・空襲警報が鳴るとみんな一斉に避難した話を聞いた ・工場や家が燃え、朝には一面焼け野原になった 	<p>【家族との別れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曾祖母は子どもの頃被爆体験をしたと聞いたよ ・親が急にいなくなって困ったという話も聞いた ・曾祖父の父は沖縄へ行って帰ってこなかったって
<p>【校区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄小がある所は兵器庫だったから空襲で狙われた ・今のミラまち付近は軍事工場があったらしい ・曾祖父が陸軍の学校で先生をやっていたんだって 	<p>【戦後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捕まってシベリアで3年間も暮らしていたらしい ・寒い中病気の人でも薬をもらえず人がどんどん死んだ ・朝鮮で先生をしていて戦後命がけで逃げてきた

- ・曾祖母は戦争の話をしたくなさそうだったって聞いたよ ・思い出すと辛いから話したくないんだね
- ・私たちの親戚も戦争を経験していたことがよくわかったよ ・こんな経験をしていたなんて信じられない
- ・もっと戦争について知りたいな ・聞いただけではわからないこともあったから調べてみたい 手だて①②③

どんな戦争だったのかな ②～⑤ (調べ2、話し合い2) ※遺跡見学と体験活動は総合、調理実習は家庭科

<p>〈兵隊・軍部〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性には兵役の義務があり、満20歳で軍隊に入ったんだね ・兵士の数が足りず、予備役も動員されるようになったんだね ・日中戦争では朝鮮の人でも日本人の兵士として戦ったんだね ・中国への進出に否定的な人も軍部の中にはいたんだね <p>豊橋の戦争遺跡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日露戦争後に豊橋に軍隊を招いたんだ。その後豊橋には人が集まり大きく発展したのか ・兵器を運ぶために1925年に渥美線ができたんだね ・豊橋で訓練した兵隊は満州や中国へ戦いに行ったんだね ・陸軍と海軍との間で戦争の進め方について、対立があったみたいだね <p>※戦争遺跡見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今も残っているのはなぜかな ・ふだん見ていたものの意味がわかった ・豊橋で訓練した兵士は満州や中国などに戦いに行ったんだ 	<p>〈戦争の経緯〉</p> <p>1929年 世界恐慌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本をはじめ世界中が不景気で、会社や工場が次々につぶれてしまい、行きづまる国も多かったんだ <p>1931年 満州事変</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満州の資源を確保したり、増えてきた日本人の移住先を確保したりするための行動だったんだね ・日本軍が鉄道を爆破して、中国側のせいにしたのか <p>1933年 国際連盟脱退</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満州国を独立させて政治の実権を握ろうとしたけど、国際連盟では認められなかったんだね。そこで日本は国際連盟を脱退し、世界の中で孤立したんだね <p>1937年 日中戦争</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北京郊外で日本軍の軍事練習中に発砲されて戦争が起こったんだね ・中国側が逃げたり、抵抗したりして長期化したんだね ・南京事件では、日本軍が一般市民を虐殺したとも言われているよ ・どちらも多くの死者が出たんだね 	<p>〈国民の暮らし〉</p> <p>衣・江戸時代までは和服の人ばかりだったけど、洋服を着る人もだんだん増えてくる時代だね</p> <p>食・開国して以来、外国から伝わった食事を食べるようになった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洋食が増え今と似てきたよ <p>住・洋間を取り入れるなど、家も現代に近づいてきたよ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区のコンドールパンもこの頃できた建物でレンガ造りだよ <p>学校・遊び・国語の授業では、「ハイタイスメ」と音読した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争ごっこや戦争かるたなど、子どもたちも戦争に関心が高く、兵隊にあこがれていたんだね ・だんだん戦争に関する内容が増え、算数などは減っていった <p>メディア・言論統制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大本営発表を受け、メディアが国民に戦況を知らせていたんだ。国民の戦意を下げそうな内容は報道できなかったんだね ・処罰されるから、思っていることを言えなかったのか
---	--	--

- ・世界中のどの国も、自分の国のことを考えて行動していて、その考えがぶつかってしまったんだね
- ・軍や兵隊だけじゃなくて、国民も戦争一色で日本軍を応援していた時代だったんだ
- ・自分なら戦争に反対すると思うけど、この時代の人たちは戦争に反対することができなかったのかな
- ・家の人の多くが、日本が負けた時の話をしていたけど、この戦争はどのようにすすんでいったんだろう

〈兵隊・軍部〉

〈戦争の経緯〉

〈国民の暮らし〉

- ・ 当時は家庭の仕事に専念することが普通だった女性さえも工場で作っていたのか
- ・ 本人も家族も赤紙がきて戦争に行くのを喜んだと体験者の方が言っていたけど、訓練は大変そう。死の危険もあるし、家族はどう思ったのかな
- ・ 人が足りず大学生も戦地へ動員されるようになったんだ。中学生や高校生は工場で作るようになっていったんだ

豊橋の戦争遺跡

- ・ 豊川海軍工廠では豊橋の女性も労働していたんだね
- ・ 戦争に重要な役割を果たしていたから空襲で狙われたんだ

※松やに体験

- ・ 飛行機の燃料にしようとしていた
- ・ 灯油に比べて全然燃えないね

※防空壕掘り体験

- ・ 空腹の中辛かっただろうな
- ・ 30人でも1m掘るのは大変だった

東南アジアへの侵攻

- ・ ヨーロッパの植民地支配から東南アジアの国々を解放するため、また石油などの資源を確保するためフィリピンやインドネシアにすすんだ
- ・ 日本の動きを止めるために、アメリカは日本への石油輸出を制限した

1941年 真珠湾攻撃

- ・ 日本軍の奇襲攻撃により太平洋戦争が始まったんだね
- ・ 優勢だったけど形勢が逆転した

空襲

- ・ 大都市が次々被害を受けた
- ・ 焼夷弾で家屋がどんどん焼けた

1945年 沖縄戦

- ・ 約3か月間の地上戦で17万人以上の方が犠牲になったのか
- ・ 一般の市民に加えて、中学生や高校生も動員されたんだね

1945年 原爆投下

- ・ 広島では12万人、長崎では7万人の人が亡くなったんだね。戦後も後遺症になった人もいるんだ

- 衣**・自由に服は買えず衣料切符と交換で服を手に入れた
- ・みんな同じような服装だった
- 食**・配給制で少量しか食べられないのは辛かったろうな
- ・食べ方を工夫して量を増やす努力もしていたんだね
- ・カエルや虫も食べていたのか

※すいとん調理実習

- ・ 具が少なく健康によくなさそう
- ・ これが当時のご馳走だったのか

- 住**・学童疎開で家族と離れてしまった子もいたんだ
- ・ 家にある金属は回収された
- ・ バケツリレーで消火練習をしたり、防空壕を掘ったりした
- 学校**・空襲警報が鳴ると防空壕へ走って避難したんだ
- ・ 軍事教練や農作業のため、勉強の機会は減っていったんだね

※軍事教練体験

- ・ 重い物を持って歩くのはきつい
- ・ 匍匐前進って難しいんだね

- ・ アメリカとの戦争が始まると、次第に戦況が悪くなっていき、それに伴って国民の生活も変わったんだね
- ・ こんなに追い込まれていたら、戦争をやめたいと思う人がやっぱりいたはずだよ
- ・ 当時の人々は戦争についてどう思っていたんだろう。戦争を体験した人にも直接聞いてみたいよ

日本人々は戦争をやめたいとは思わなかったのかな ⑥⑦⑧ (体験者内藤さんへ聞き取り1、調べ1、話し合い1)

- 【内藤さんの話】・ 当時は「命を懸けて国を守る」考えがあったが、正直「死にたくない」という思いがあった。
- 【話を聞いて】・ なぜ日本は早いうちに戦争をやめなかったか ・ なぜ勝っているという情報を流したのかな

やめたいと思っていた人もいたのに、なぜ戦争は続いてしまったのだろうか

手だて①②

【勝つと信じていたから】

- ・ うその情報を聞いていて勝つと信じていた
- ・ 学校でも日本は必ず勝つと教えられていたから

【やめたいけどやめられなかったから】

- ・ 反対すると非国民と言われ仲間外れにされたから
- ・ 占領されると人として扱われなくなってしまうから

【日本を豊かにするために】

- ・ 不景気から脱出するため
- ・ 資源を手に入れ、日本を強くするため
- ・ 天皇を守るため

- ・ 戦争は15年も続き、やめたくてもやめられない状況におちいってしまったから、内藤さんのように思っていた人がいてもどうにもできず、降伏して、終戦を迎えたんだね。
- ・ 恐ろしい戦争をふまえて、どんな願いを込めて新しい日本が作られていったのか知りたいよ。

日本はどうやって立ち直っていったんだろう⑨⑩ (調べ1、話し合い1)

手だて①

【新しい国の仕組みを作ったよ】

- ・ ぼくたちが国のことを決められる国民権になったよ
- ・ 誰でも平等に扱う基本的人権の尊重が取り入れられたよ
- ・ 二度と戦争をしないように平和主義を取り入れたよ

【社会の仕組みを変えていったよ】

- ・ 20歳以上の男女に選挙権が認められたよ。
- ・ 憲法の考えにもとづき、戦争のない平和な国や社会を作る国民を育てるための教育になったよ

- ・ 国が豊かにするために何を大切にすべきか、戦争の恐ろしさをふまえて考えるようになったんだね
- ・ 平和の大切さを実感した国民が、新しい日本を作ろうとがんばってきて、今のぼくたちがあるんだね

平和な世界を守り続けるために自分たちにできることは何だろう⑪ (調べ1、話し合い1)

手だて①

- ・ 先人たちが過去の歴史から学んだことを生かして努力したことで、平和な世界が作られていることがよくわかったよ。歴史をもっと学んで、よりよい社会を作るためにどうすべきか、自分で判断できるようになりたい
- ・ つらい経験を思い出しながらも戦争を語り継ぐ人達に出会って、平和への思いと、平和を守っていくことの大切さを感じることができたよ。自分も後の世代に平和の大切さを伝えていける活動ができればいいな

5 研究の実際と考察

(1) 戦争について聞いてみたいな（家族にインタビュー）（第1時）手だて①②

本単元に入る前に、総合的な学習の時間を活用して、豊橋ユネスコ協会の方を招き、太平洋戦争や豊橋空襲についての話を聞いた。戦争を体験した方から当時の様子や自分たちが住む町の近くも空襲で大きな被害を受けたことを知った。自分たちと戦争との関わりに気づきはじめて子どもたちは、戦争についてもっと知りたいという思いをもった。そこで家族に、戦争を経験した親戚の話がないかインタビューを行うことにした。

第1時では、インタビューの内容を交流した。「防空壕を掘り、そこへ逃げ込んだ。」や「豊橋空襲の際、何とか命が助かった。」「食べ物にひどく困った。」などの内容から、多くの子が自分の親戚と戦争とが関わっていることを知ったことがわかる。話し合いを通して、A児は、「虫を食べていたなんて信じられない。」と、戦争により国民が苦しい生活を送ったことに驚いていた。また、B児は、「たくさんの人の命を奪う戦争は、やってはいけない。」と戦争を起こしてはいけない気持ちを高めていた。総合的な学習の時間などを通して、戦争を体験した方と子ども達をつなぐ学習活動を設定したことで、子ども達が戦争の悲惨さをより感じるようになったことがわかる。

交流を通じて学級全体に、「防空壕って何だろう。」や「戦時中の食べ物について知りたい。」という追究意欲の高まりが見られた。そこで、次時以降で、どんな戦争だったのかについてさらに追究することにした。

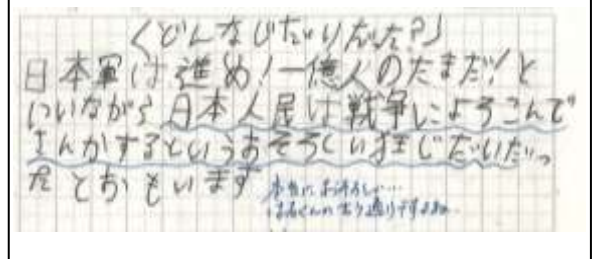
(2) どんな戦争だったのかな（第2～5時）手だて①②③

戦争について知りたいという子ども達の願いを受け、校区や豊橋公園の戦争遺跡の見学を行った。日頃通学路で見ている門や松林などは、戦争の面影を伝えるものだったということや、身近な場所に、戦争関連のものが多くあるということに驚く子どもが多かった。さらに、「なぜ豊橋には戦争遺跡がこんなに残っているのか。」と発言した子どもをきっかけに、戦争遺跡を残す価値について考えた。「戦争の悲惨さを後世に伝えるため」「戦争を知らない人に教えていくため」など、さまざまな理由を考えた。この活動を設定したことで、子ども達は、より深く戦争について学び、戦争について語り継いでいくことの必要性や大切さについて実感することができた。

第2時～5時では、個人の問題意識に応じて調べ学習を行った。調べ学習は、日本が戦争に突入した理由と戦争が国民生活に及ぼした影響を捉えやすくするため、前半と後半の二つに分けて行った。

前半は、世界恐慌が始まった1929年から真珠湾攻撃が起こる前の1940年までの期間とした。子ども達は、図書資料を活用し、満州事変や日本の国際連盟脱退など、日本が戦争に突入した経緯について調べた。また、戦争と国民との関わりについて調べた子ども達もおり、両者に関わらせるため、話し合いの時間を設定した。それぞれが調べた事実をつなげる中で、多くの子が「当時の日本は、戦争一色だった。」「国民は、戦争は正しいと思い込んでいた。」と発言した。A児も「日本人は、戦争に喜んで参加する恐ろしい時代だった。」と振り返りに記述した。[資料1] また、B児は、「次回（後半の調べ学習）も国民の生活を調べて、今回調べたことと違いはあるのか調べたい。」と記述した。時代が変化することで国民生活にも変化があるのではないかと予想し、すすんで調べようとしていたことがわかる。これらのことから、クラス全体で意見を交流する活動を設定したことが、現在と当時の時代背景の違いについてより理解を深めることにつながったことがわかる。

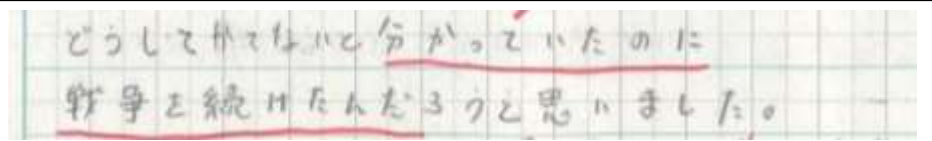
[資料1] 当時の日本人は、喜んで戦争をしていたことに気づいたA児の記述



調べ学習の後半は、真珠湾攻撃が起こった1941年から1945年の終戦までの期間とし、個人でテーマを設定して行った。戦争について興味をもった子は、真珠湾攻撃の経緯や沖繩戦、原爆投下までの流れについて調べた。また、国民生活について興味をもった子は、国民生活の変化や空襲による被害などについて調べた。交流活動の中で、前半で調べた時代との違いに子ども達が気づき始めた。話し合いをすすめると、戦況の悪化にともない、資源や物資、食糧が不足し、国民の生活も非常に圧迫されていたことを理解した。また、「どれだけ苦しい状況だったのだろう。」という子ども達の疑問が出た。それを受け、総合的な学習の時間を活用し、防空壕掘り体験やすいとんを実際に作って食べる体験、当時の子どもたちもしていたとされる軍事教練体験を行った。子ども達は、身をもって体験した過酷な状況の中で、当時の人々は、「戦争に負ける」と確信していたのではないかと、疑問を抱きはじめてきた。B児は、「どうして勝てないと分かっていたのに、戦争を続けたんだろうと思った。」と記述した。子どもの問題意識に合わせて総合的な学習の時間を活用した体験活動を行ったことで、当時の国民生活の様子や国民の思いについて主体的に考えようとする意欲を高めることができた。

考えられる。〔資料2〕

〔資料2〕なぜ日本は戦争を続けたのか疑問を抱く抽出児Bの記述

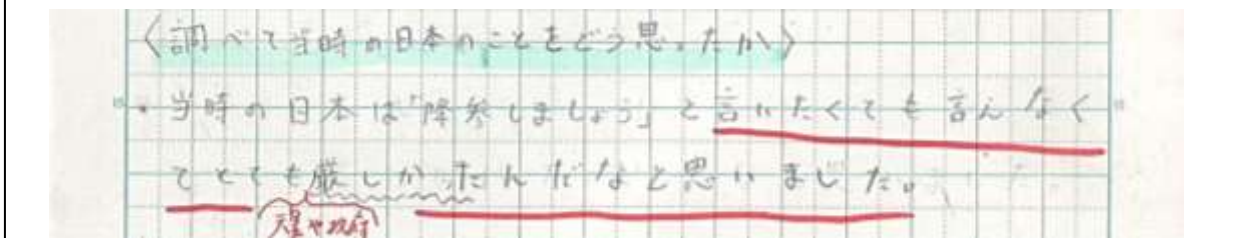


どうして休まないと分かっていなのに戦争を続けたんだろ?と思いました。

(3) 日本の人々は戦争をやめたいとは思わなかったのかな (第6～8時) 手だて①③

前時までの学習で、日本が追い込まれていたにも関わらず、戦争が続いたことに疑問を抱く子どもが多くいた。そこで、戦争が続いた理由について調べた。調べ学習後の交流活動では、「当時は、天皇や政府の意見が絶対だった。」「勝利を信じてやめたくないという人がいた。」「負けたらさらに深刻な状況に陥る。」など、さまざまな理由が出された。そして、実際に戦争を体験した方から意見を聞いて確かめたいという発言が出てきた。それを受け、戦争体験者の方を招き、話を聞いた。本音では、戦争はよくないと思っていた人も多かったという話を聞いたB児は、「当時の日本は、降参しましょうと言いたくても言えなくて、とても厳しかったと思った。」と記述した。当時の国民の思いについて共感的に理解し、その思いをどうすることもできない社会状況についても理解しようとしている様子が見て取れる。このことから、クラス全体での意見交流によってさまざまな視点をもって、戦争や当時の社会状況について捉えられるようになったことがわかる。また、戦争を体験した方と子ども達をつなぐ学習活動の設定によって、戦争についてより切実感をもって考えることができるようになったことがわかる。〔資料3〕

〔資料3〕戦時中の日本は、言いたいことが言えず厳しい時代だったと考えるB児の記述



<調べた当時の日本のことどう思ったか>
当時の日本は'降参しよう'と言いたくても言えなくてとても厳しかったんだろ?と思いました。

戦争をどうすることもできなかった当時の社会状況について理解した子どもたちに「戦争が終わって当時の人々は、どんな日本になってほしいと思ったのか。」と問いかけた。B児は、「戦争がなく、平和な日本になってほしい。」、A児は、「国民が意見を出し合えるような世界をめざしたと思う。」と記述した。現在と過去の社会状況について捉えながらも、戦争を経験したことで、国民が平和を希求し、自らの手で国の方向性を決定したいという考えに変わったのではないかと考えるようになった。話し合い活動の設定とその中で獲得した視点をもとに、再度思考を促す教師の支援によって、子ども達は当時の人々のめざした新しい国づくりについてより深く考えることができるようになったことがわかる。

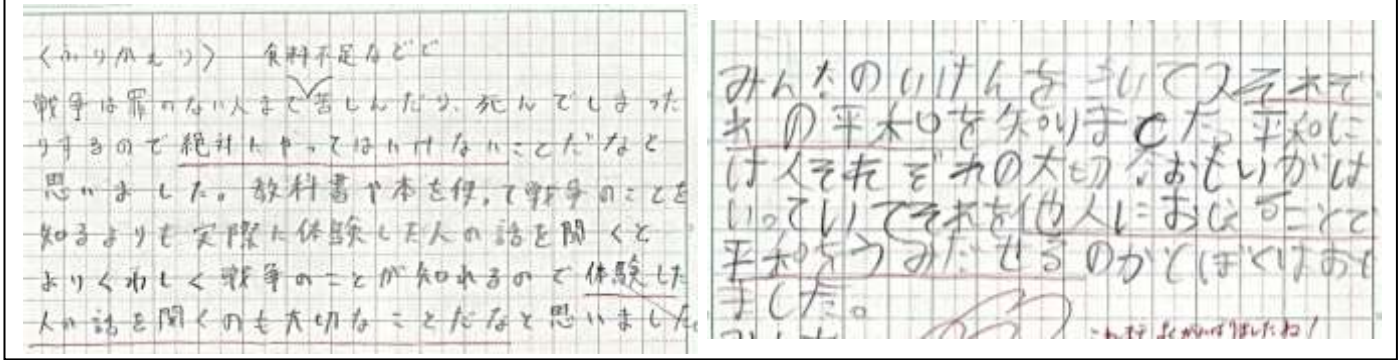
(4) 日本はどうやって立ち直っていったのだろうか (第9・10時) 手だて①

その後の日本について目を向けはじめた子ども達に、「日本は、戦後どのように立ち直っていったと思うか。」と問いかけた。B児は「みんなで協力した。」と、A児は「税金を集めて復興計画を立てた。」という予想を立て、図書資料を用いて調べ学習を行った。日本国憲法の制定や平和条約の締結など、平和のためにさまざまな努力を続けてきたことを知ることができた。また、そのような努力を知ることによって、「もう二度と戦争の時代のような日本には戻ってはいけない。」「昔の人々が大変な思いをしてつくり上げてきた平和な日本を守っていきたい。」という思いをもった。このことから、図書資料による調べ学習が、当時の社会状況について理解を深め、平和への思いを高めることにつながったことがわかる。

(5) 平和な世界を守り続けるために自分たちにできることは何だろう (第11時) 手だて①

前時で、平和な世界を守ることに大切さに考えた子どもたちに、「今自分たちには何ができるだろう。」と問いかけた。これまでの学習を振り返り、「自国の利益を追究しすぎることが戦争の引き金になるので、他国の人も仲良くできるようにしていきたい。」と考える子や「国民が意見をしっかりと言えるようにしたい。」と発言する子がいた。B児は、「体験した人の話を聞くのも大切だ。」と記述した。A児は、「平和への思いを他人に教えることで、平和を生み出せると思う。」と記述した。これらの姿から、図書資料による調べ学習や戦争体験者との関わり合いの積み重ねが、戦争を語り継ぐことの大切さに気づかせ、平和への思いを高めることにつながったと考えられる。〔資料4〕

[資料4] 平和な世界を守り続けるために自分たちにできることを考えたB児（左）とA（右）の記述



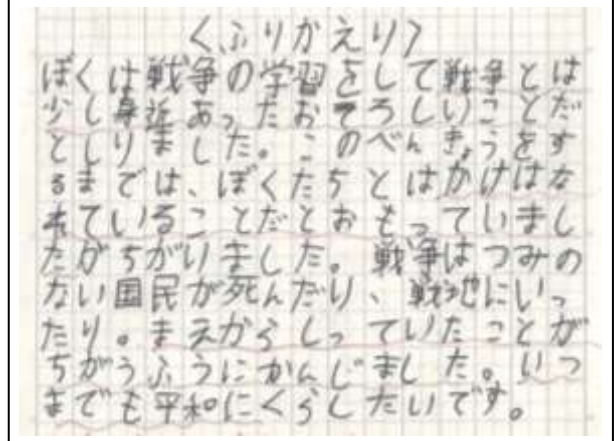
6 研究のまとめ

(1) 手だての検証とその成果

《手だて①②》調査方法の工夫、総合的な学習の時間との教科横断的な単元構想

第8時において、A児は、「戦争は、僕たちとはかけはなれていることだと思っていたが、違った。前から知っていたことが違う風に見えた。いつまでも平和に暮らしたい。」と発言した。[資料5] 本単元の学習を通して、A児は、戦争を自分と関係のあることとして捉え直し、平和の大切さについて深く考えるようになった。その他の子も戦争の悲惨さや当時の社会状況について理解を深めていた。これらのことから、図書資料の活用や戦争を体験した方と子ども達をつなぐ学習活動、総合的な学習の時間を活用した体験活動が、戦争の悲惨さを理解することや平和への思いを高めることにつながったことがわかる。よって、仮説1の有効性が確認できた。

[資料5] 戦争を身近なこととして捉え直し、平和の大切さについて思いを高めたA児の記述



《手だて③》個人→グループ→全体という学習の流れ

B児は、第2時の調べ学習において、国民生活の中でも特に衣食住に着目して調べていたが、交流を通して、学校生活も戦争中心に動いていたことや、若い人も戦争のために働いていたことを知り、戦争が国民生活に大きな影響を及ぼしていたことに気づいた。また、A児は、朝鮮半島やヨーロッパ情勢のことについて調べていたが、全体交流の場で、戦争による国民生活への影響を知った。両者とも戦争の恐ろしさや当時の社会状況について、新しい視点を獲得することができた。そして、その視点の獲得が戦争はすべきではないという思いを強めることに結びついた。これらのことから、個別学習と協働学習を繰り返し行うことで、新しい事実や考え方に気づき、平和への思いを高めることにつながったと言える。よって、仮説2の有効性が確認できた。

(2) 今後の課題

戦争を語り継ぐ人の高齢化

戦後、78年が経過し、戦争体験者もその多くが80歳を越えるようになった。実際に戦争の悲惨さを実感させるために、直接語ってもらう活動が難しくなる可能性がある。同様な実践をすることに備えて、語った内容を映像記録として保存しておく必要があると感じる。

話し合いの土台となる基本的知識の定着

子どもによって調べたテーマが異なったため、内容によっては、子どもの間で理解度に大きく差が出てしまった。これらの知識は話し合いの土台となるため、単元がすすむにつれ、話し合いを理解できない子が増えてしまったように感じた。その差を埋めようと、定期的に小テストを行ったり、クイズを掲示したりと、知識の定着を図った。話し合いの土台となる知識をクラス全員に効率的に定着させることが今後の課題である。